

(3) 2021 年度第 2 クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

法務研究科 法務専攻(専門職学位課程) . . . . . 227

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法務研究B  
授業コード 44B87-001  
教員名 久世 表士  
教員コード 101029  
登録人数 3  
回答数  
回答率  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講座は、将来法律実務家を目指す学生や法律実務に関心を持つ学生を対象とする講座であるが、本年度は受講生が3人と少なかった。しかし、いずれの学生も法律の実際の適用について興味関心が強く熱心に講義に参加した。

講義では双方向性の講義になるよう心がけながら、法学部で学ぶ民法、民事訴訟法が、裁判実務で実際にどのように使われ、機能するのかを実際に理解してもらうこと講義の目標とした。

講義内容としては、簡易裁判所のホームページに掲載されている一般人向けの訴状や答弁書のひな形を用いて訴状、答弁書を起案してもらう体験型の講義を行った。講義の際に次回講義で扱う事例問題を事前配布して事前に訴状・答弁書を書いてきてもらい、講義において質疑応答しながら問題を解説する形式の講義を行った。テーマとしては実務における典型的な訴訟類型である貸金返還請求訴訟、売買代金請求訴訟、賃料不払による賃貸借契約の解除に基づく家屋明渡請求訴訟などを取り上げ、講義ではまず、これらの訴訟の基本知識を講義し、裁判管轄から始まり、訴状や答弁書に記載が求められる必要不可欠な事実は何なのかについて、民法の条文を参照しながら、主張立証責任の分配を踏まえて受講生と共に考えながら講義を進めることができた。

私自身は定年で、本年で最後の講義となるが、学生は実務的観点からの民法・民事訴訟の講義に興味をもっているので、法務研究Bのような講義を開講することの意味は大きいとの感想を持ちました。